

東京大学大学院人文社会系研究科
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣
研究報告書

研究課題

和名『ブラフマーストラ・バースカラ註解』後半部の新校訂批判版
現地公用語 Die textkritische Neuedition der letzten beiden Kapitel des
Śārīrakamīmāṃsābhāṣya des Bhāskara

氏名 加藤 隆宏 (かとう たかひろ)

派遣カテゴリー 平成23年度夏学期個人派遣：PD

渡航先の基本情報

研究機関名

マルティンルター大学ハレ・ヴィッテンベルグ インド学講座
Seminar für Indologie, Martin-Luther-Universität, Halle-Wittenberg

国名・都市名

ドイツ・ハレ市
Halle(Saale), Deutschland

受入教官

ヴァルター・スラーイエ教授
Prof. Dr. Walter Slaje

派遣予定期間 平成23年9月1日から平成24年8月31日まで

変更後の派遣期間 平成23年9月1日から平成24年3月31日まで

研究成果について

本研究はヴェーダーンタ派の聖典『ブラフマーストラ』に対するバースカラ註の校訂テキストを作成するというものである。

『ブラフマーストラ』(1c.)はヴェーダーンタ(ウパニシャッド)に説かれる真理を簡明な文章で解説したもので、ヴェーダーンタ派の人々によって根本聖典として後世に伝えられてきた。『シャーリーラカ(自己の究明)』とも呼ばれるこの経典では“自己の本質”を探求することに眼目がおかれ、自己と絶対者との合一が教義の中心となっている。

『ブラフマーストラ』に対する註解と言え、シャンカラやラーマヌジャのそれが代表的なものとして、彼らの解釈に従った『ブラフマーストラ』研究が数多く成されてきた。特に現存する註釈文献の中で最も古いシャンカラ註は、『ストラ』の原意に最も忠

実であると強く信じられている。しかしながら、『ブラフマーストラ』の原意に最も忠実であるのはバースカラによる註解であるということは、中村元博士を始め研究者がたびたび指摘してきたところで、今日に至るまでほとんど省みられることのなかったバースカラ註釈に基づく『ストラ』研究は、当該研究において全く新しい視点を提供することになる。しかしながら、『ブラフマーストラ・バースカラ註解』についてはこれまでほとんど研究がされてこなかった。この主な原因としては初版本の不備が挙げられ、この点はこれまで多くの研究者によって指摘されてきた。

プロジェクトではシカゴ大学の故ファン・バイトネン教授が40年以上前に遺した資料と申請者によって新たに確認された数本の写本の異読情報を合わせ、『ブラフマーストラ・バースカラ註解』の新批判版を作成し、さらに、この批判版に基づく訳註研究を完成させることである。本プロジェクトではサンスクリット本文のうち、約3割にあたる第三章、第四章のテキスト校訂の完成を目指したが、先に提出した「渡航計画変更書」に述べた理由により、今回のプロジェクトでは第三章の校訂批判版を完成させて終了した。(別紙のサンプルを参照)

研究計画の変更について

派遣予定期間の平成23年9月から平成24年8月まで、申請者は、マルティンルター大学に在籍し、同インド学講座のスラーイエ教授の指導のもと研究を続ける予定であったが、平成24年4月より東京大学大学院人文社会系研究科助教の任を拝命し、平成24年3月末日をもって研究プロジェクトを断念せざるを得なくなった。今後は、人文社会系研究科助教として、博約プログラムのサポートを行っていきたい。

研究成果の公表

本研究プロジェクトの成果の一部はすでに公表されつつある。まず、平成24年1月には、インド・デリーにて第15回国際サンスクリット学会が開催され、哲学部門において「Bhāskara's concept of *jñānakarmasamuccaya* (バースカラの知行併合論について)」というテーマのもと口頭発表を行った。また、論文「バースカラの無明論批判と別異非別異論」は近刊の『インド哲学仏教学研究』第19号に掲載予定である。